

日本語学校に通う韓国人留学生たちのパーソナル・ネットワーク形成過程分析(2)

—インターネットの役割分析—

鄭根河*

(e-mail : wrg3141@naver.com)

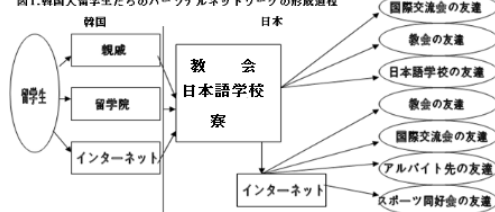
目次

1. はじめに
 2. 調査方法
 3. インターネット及びソーシャル・スキル/サポートの先行研究
 4. 韓国人留学生とインターネットの役割分析
 5. 結論
- 参考文献

1. はじめに

前回の論文¹⁾では日本語学校に通う韓国人留学生たちの留学ルートや留学する前と、来日してからのパーソナル・ネットワーク形成過程を分析した。その結果を<図1>で示した。

図1. 韓国人留学生たちのパーソナルネットワークの形成過程



今までの韓国社会は血縁・地縁・学縁という緊密で強い紐帯で結ばれていたが、高速インターネットの登場により、その機能が段々衰退しつつあることが分かった。今までの移民は家族や親戚という身内を頼りにして移住する相互扶助型移住²⁾・連鎖移住(Chain

* 전남대학교 학생독립운동연구원 연구교수

1) 鄭根河(2011)「日本語学校に通う韓国人留学生たちのパーソナル・ネットワーク形成過程分析(1)」『韓国日本文化学報』第49輯、韓国日本文化学会

Migration)が常識だった。また血縁は誰よりも頼もしく、確かなパーソナル・ネットワークだったが、今回親戚が頼りになると答えた人は66人中、僅か7人しかいなかった³⁾。しかしこれに代わって現れたのが「インターネットサイト」を頼りにする人たちである。この人たちは日本留学という共通の興味を持って、特定の架空の空間に集まり、活動する人たちであり、彼らはお互いの顔も名前も知らない匿名の人たちだが架空の空間「インターネットサイト」を通して留学情報(387人)はもちろん、ソーシャル・サポートが期待できるパーソナル・ネットワークまで(83人)形成していた。これは対面接触を基本として人脈を形成していたかつての留学生たちには経験したことのない新しいパーソナル・ネットワーク形成方法であり、またそれは、韓国社会が血縁・地縁・学縁という強い紐帯に頼らない社会へと変化していることを示唆している。

山崎誠(1996)は「留学生の問題には、個人のみを対象とした心理治療より環境調整が効果的である。そして周囲の人の援助を得ることが、ことに重要だ」⁴⁾と述べている。かつての韓国人留学生たちは強い紐帯の人を頼りにし、異国で生きて行くために身に付けなければならないソーシャル・スキルをはじめ、ソーシャル・サポートを得ていた。しかし、血縁・地縁・学縁という強い紐帯に頼らない社会へと変化しつつある今、韓国人留学生たちは一体どこでソーシャル・スキルをはじめ、ソーシャル・サポートを得て、心理的な安定をも得ているのか。今回は、前回取り上げられなかった2つのインターネット(Daum Caféの동경유학생모임⁵⁾とcyworld⁶⁾)の紹介と、両サイトを留学生たちがどのように利用しているのかを詳しく説明しようと思っている。

今回の論文では、同じ学生身分でありながらも他のビザの人より、パーソナル・ネットワーク形成に苦しみワーキング・ホリデービザの人たちを中心に見ていこうと思っている。その訳を言うと、今回の副題であるインターネットの役割がワーキング・ホリデービザの人たちから非常に明確に確認できるからである。

2. 調査方法

2) 相互扶助型移住システムは (Arango 2000:291)、社会的資本の蓄積過程として示したように特定のネットワークにおけるパーソナルな人間関係を基礎とする。先発者は後発者を助け、後発者は先発者の厚意に報い、さらなる後発者を助けなければならない。そこで働くのは、コミュニティ内部を循環する一般互酬の原理であり、相互扶助の網の目に行為者が組み込まれることが移住システムを利用する条件となる。

3) 431人の留学生の中、66人が日本に親戚がいたが、親戚と一緒に生活している人は2人しかいなかった。また、2人もできれば一人暮らしをしたいと言っていた。

4) 山崎誠 (1996) 「留学生問題のいろいろ」『日本科学者』 Vol.31 No.4 (通巻339号)

5) 1999年にサービスを開始し、2009年11月現在会員数142,748人の韓国のポータルサイト
<http://cafe.daum.net/japantokyo>

6) <http://www.cyworld.co.kr/>

本調査は日本語学校に通う韓国人留学生が何人いるかという母集団の数字が分かり難い調査である。この調査はどちらかというと事例の量の多い事例研究、つまり半標準化された質問紙調査(アンケート調査)であり、統計的標本調査ではない。また、この調査は全問自由記述様式になっている。そしてインタビュー調査や参与観察調査を行い、そのデータを分析したものである。

この調査は2008年7月から10月まで、約4カ月を掛けて質問紙調査を行った。対象は東京都内にある約156校の日本語学校⁷⁾の中、韓国人留学生が多い42校を選び、電話やファクスを送ったり、あるいは直接訪問をして質問紙調査を依頼した。しかし25校の日本語学校が調査を拒否し、また3校は質問紙を送ったが一票も帰って来なかった。総計1500枚の質問紙を準備し、17校の日本語学校に配った。そういうふう配った質問紙1500枚の中、回収されたのは463枚だったが、その中で、まったく回答されなかったもの14票と、字が読めなかったもの18票、計32枚は外した。従って、本論文は431枚の調査票を分析したものである。

それから、事例調査の特徴とも言える「予想しなかった結果」が続出したため(全然知らなかった人同士がインターネットを通して実際会っていたことなど)筆者はインタビュー調査も取り入れた。インタビュー調査からは韓国人留学生たちがよく利用しているインターネットサイトが明らかになった(Daum Caféの동경유학생모임)。それでそのサイトを調べると留学生たちの状況がもっと詳しく描かれると思い、동경유학생모임の生活日記という掲示板を採用し、パーソナル・ネットワークの形成過程を分析した。

今回の調査に協力してくれた韓国人留学生の滞在資格の種類を見てみると就学ビザの人がもっとも多く(372人)、その次はワーキング・ホリデービザ(23人)、留学ビザ(22人)、研修ビザ(6人)、観光ビザ(4人)、家族ビザ(4人)であった。

3. ソーシャル・スキル/サポート及びインターネットに関する先行研究

3.1 異文化での適応に必要なソーシャル・スキル・サポートに関する先行研究

日本で生活をしている留学生たちは、母国では体験したことのない様々な困難を背負いながら、日本での生活を送っている。留学という、慣れない異国での生活で、留学生たちに必要なのは「周囲の人の援助を得ることだ」と山崎(1996: 208-212)は述べている。

周囲の人の援助を社会学ではソーシャル・サポートと言い、その人たちをソーシャル・サポート・ネットワークと言っている。ソーシャル・サポート・ネットワークについての研究を田中

7) <http://www.aikgroup.co.jp/j-school/japanese/index.htm> 全国日本語学校データベース (2008年7月検索)

共子(2000：11-13)が以下のように纏めている⁸⁾。

周囲の人々の支援があればストレスは弱められ、病気になりにくかったり予後が良かったりするが、これをソーシャル・サポートのストレス緩衝効果(Stress buffer effect)と称する(スコット 1989)。ストレス緩衝仮説に基づく、サポートによる健康の維持や好転への効果は、不健康状態を招かないという意味で適応を高めたと解される。(p.11)

また、宗教関連のグループでなくでも、Killilea(1976)は、心理的なサポートを供給する自助グループは、精神的な支えのみならず、異文化での問題に有効な対処方略を引き出し、適応に有益に働くと指摘した。Fontaine(1986)は、異文化でのサポートの役割は、ストレスの緩和のみならず、異文化での課題に対する有効な対処が含まれるとした。Coehlo, Yuan, & Ahmed(1980)は、情報の獲得や行動リハーサルの機会を提供すると述べている。そしてAmarasingham(1980)や、Fontaine & Dorch(1980)は、親しい関係を築くことが、異文化における良質の体験と個人の成長にとって重要と述べている。(p12)

そして、異文化環境下におけるネットワーク形成の心理的な機能について、Adelman(1988)はこう述べている。自分の行為がもつ意味についての社会的フィードバックSocial feedbackが与えられることで正しい帰属を得られ、心理的な不明瞭さや不確さが減少する。自分は一人でないとなれば、不安でも犠牲者の感覚は減る。自文化の知識があてはまらない中で、不安感から抜け出すためには、ホストの視点による帰属を完成させることが必要であるとした。(p13)

留学生が周囲の人の援助、つまりソーシャル・サポートを得るためには、ソーシャル・サポートをしてくれる対人関係を形成しなければならない。個人が対人関係をうまく形成するために必要な技術などを社会学ではソーシャル・スキルと言っている。それではソーシャル・スキル⁹⁾とはいったい何だろうか。ソーシャル・スキルとは、対人関係を形成・維持・発展させるための技能のことで、いわば対人関係の様式をさす。文化圏ごとに行動様式も異なるが、

8) 田中共子(2000)『留学生のソーシャル ネットワークとソーシャル スキル』ナカニシヤ出版、p11-13

9) さまざまな研究者によるソーシャル・スキルの定義

Riggio (1986)	基本的な情報の発信と受信がソーシャル・スキルの鍵である。認知的能力(対人的問題解決スキルなど)は付加的なもの
Foster, Inderbitzen & Nangle (1993)	ある特定の場面で、短期・長期的に、その子どもと周りの人間にとってポジティブな結果をもたらすと同時にネガティブな結果を最小にする行動
Darden & Ginter (1996)	ソーシャルスキルのある人 = ある特定のスキルを持っていて、それらのスキルをどこでいつ使うかを知っている人
Segrin (1998)	他者と、適切な方法で効果的に接することを可能にするスキルや能力
相川 (2005)	対人関係の目標を達成するために、言語的・非言語的な対人行動を適切かつ効果的に実行する能力

ここでは異文化において必要となるソーシャル・スキルを異文化間ソーシャル・スキルと称する。挨拶の仕方やお礼の言い方、断り方などの人づき合いの仕方をはじめとして、文脈に即した相手の行動の解釈やとるべき行動に対する適切な認識などその文化での行動の方法と考え方を身に付けるための機能のことを意味する。

ソーシャル・スキルが獲得できていれば、速やかに対人的ネットワークを発達させることができ、獲得したソーシャル・スキルからストレス緩衝効果も得られる。対人関係上の誤解やトラブルが減少することで精神的健康が向上する。社会的場面においても有能性を発揮でき、自己実現に向かって物事に取り組んでいける。

また逆に、ネットワークがあれば、ソーシャル・スキル学習もより容易に進むと考えられる。従って当該文化の学習は、サポートを介してまたは直接に、個人の異文化適応を促進すると期待される。つまり当該社会におけるソーシャル・スキルを理解し、自ら実践できるのであればトラブルは予防され、精神的健康や生活の質は向上し、社会的有能性のある人間として自在に自己実現を果たし異文化に適応できる。

異文化での初期段階において、同民族内のつながりはネイティブよりストレスの少ない関係であり、ストレス緩衝効果のあるパーソナル・ネットワークである。この同民族間のパーソナル・ネットワーク形成は、ソーシャル・スキル・サポートを提供し、異文化での適応に役割を果たすのである。しかし、異文化での初期段階において、同民族間の頻繁な接触は、ホストの人たちとの対人関係に否定的な影響を及んでいると報告されている。つまり、小柳志津(2006: 187-188)は境界意識を例にし、留学生の境界意識が高いほどホストの接触頻度を低め、「ホストの文化規範には否定的な評価がなされやすいのでホストとの接触はストレスの要因となる」と報告した。

異文化では、実態的な文化規範の差異が客観的に評価されるのではなく、相手との関係性の中でそれぞれの立場の違いがもたらされ、その立場の違いが境界意識となって相手の文化規範への評価に影響してくる、ということをつきとめた。異文化滞在者やホスト社会の人々が、どのような基準によりどこに境界を引くのが文化規範の評価や対人関係の形成に影響しているのである。“母語話者—非母国話者”、“ホスト—ゲスト・留学生・外国人”、“ヨーロッパ系—アジア系”、“日本人—〇〇人”という帰属集団の違いは二項対立的な境界意識を発生させやすく、境界意識による内外集団の差異化が作用し文化規範を“同じ”と評価させたり“異なる”と評価させたりする。強化された差異の感覚は、相手との壁をより高くし対人関係の形成を阻害するのである。

このようにして発生した境界意識は、ホスト国での留学生コミュニティや同国人コミュニティの生成と強化に繋がっていく。これらのコミュニティは言語や生活の便宜上の目的もあるが、ホストと留学生との関係性の結果として強化されているのではないだろう。留学生や同国人のコミュニティは、留学生とホストの接触頻度を低める効果を持っている。すなわち、

境界意識が強い場合、「ホストの文化規範には否定的な評価がなされやすいのでホストとの接触はストレスの要因となる」。したがって、ホストとの接触頻度を低めることはストレス軽減に繋がると思われる。

同民族間のコミュニティの生成と強化がホストとの接触頻度を減らしているにもかかわらず、留学生たちが同民族のコミュニティに拘るのは、ネイティブよりストレスの少ない関係であり、ストレス緩衝効果があるからである。

かつての留学生たちはソーシャル・スキル・サポートを得るためには対面的な接触が必要だった。すなわち、お互いが信頼できる関係になるまでの時間が必要だった。しかしインターネットの普及により、第二次的関係¹⁰⁾・接触によるパーソナル・ネットワークも省略され簡略化されつつあると思われる。

3.2 インターネットを通じて形成されるパーソナル・ネットワーク

電子メールと携帯電話メールは、それぞれ個人のパーソナル・ネットワークの維持にそれぞれの役割を果たしていると宮田加久子(2005a : 48-49)は以下のように報告している。

PCメールを送る人が、もともとネットワークが大きいから多くのPCメールを送るのか、PCメールを送ることでネットワークが拡大しているのかという因果関係は不明であるが、PCメールが遠いところに住む友人や知人との連絡に使われていることを考え合わせると、少なくともPCメールの利用が弱い紐帯¹¹⁾も含めたネットワークの規模や多様性を維持するのに役立つことが明らかである。それに対して、携帯メールは近くにおいてサポートを提供してくれるような強い紐帯をつなげる役割を果たしていることが推測される。

電子メールは既存の親しい人々の間で、一対一で交換されるのが一般的であり、そのためのネットワークの維持や強化に役立つと考えられる。一方、オンライン・コミュニティは未知の多数の人々が集い双方向性の高いコミュニケーションを行っている場であり、かつ場所と時を越えてコミュニケーションができる点は、従来の対面コミュニケーションにはなかった特徴なのである。それ故、今までとは異なる社会の人とのネットワークが形成されたり、違う形で信頼関係が形成されたり、異なる規範が作られる可能性がある。

10) 森岡清志 (2000年) 『都市社会の人間関係』放送大学教材、p19-20

社会学では第二次的関係・接触は、目的を達成するための短期的・一時的なつながりであり、対面的接触を伴うとしても親密ではなく、皮相的で非人格的な関係であるとされている。デパートや商店における店員と客との関係、役所の窓口における係員と住民などが第二次的関係の典型である。

11) M・グラノヴェッター著、渡辺深訳 (1998) 『ミネルヴァ書房、p52

弱い紐帯の場合、知り合いは自分のサークルとは別のサークルに属する可能性が高く、自分の情報と違う情報が得られるため、転職してからの満足度も高く、高い収入を得たという報告と同様の事である。

宮田加久子(2005b: 101-102)はオンライン・コミュニティを『インターネットやパソコン通信のコンピュータ・ネットワークを介して参加者が共通の関心や問題を持って自発的に集まり、比較的対等な立場で自律的に相互作用をする社会的空間』と定義して、オンライン・コミュニティにおけるネットワークの特徴を以下のように分析した。

オンライン・コミュニティの中の対人関係にはどのような特徴があるだろうか。オンライン・コミュニティの構造や参加者の目的によって異なるが、ここでは典型的な特徴を述べることにする。

第1に、参加者が多いため、たくさんの人と知り合いになれるし、自分と共通の態度や問題関心を持つ人を見つけられる可能性が高くなる。特に、社会的マイノリティにとって、自分と類似した人を見つける場として有効であることが多くの研究で指摘されている(たとえば、Jones, 1996; McKenna & Bargh, 1998; MaKenna et al., 2002; Wallace, 1999)。

第2に、オンライン・コミュニティの対人関係は弱い紐帯(Weak tie)が多い(Gross et al., 2002)。したがって、オンライン・コミュニティでは情報収集という点では優れているが、コミュニティのアイデンティティや帰属感を持つことやソーシャル・サポートを獲得するにはあまり役立たないと考えられている(Cummings, Butler & Kraut, 2002)。

第3に、オンライン・コミュニティ内のネットワークは異質性が高い。社会階層・年齢・性別といった社会的属性の上では多様な人が参加している。ただし、様々な参加者がいるが、彼らは関心や問題意識を共有する情報縁で結ばれている。つまり、同じ関心と価値を共有する人から構成されているので、その意味では同質のネットワークを形成しやすい(池田・柴内 1997)

第4に、地域コミュニティに比べて、オンライン・コミュニティのネットワークでは、参加者の関与が低く容易にやめられる関係であり、そのため持続性が低い(Parks & Roberts, 1998; Rice, 1987)。

インターネットによるパーソナル・ネットワーク形成には上述したように長所もありながら、短所もある。しかしインターネットを利用する人たちは、自発的にインターネットに接続し、自分が持っている資源を公表し、また、他の人の資源と交換を行い、資源を共有している。つまりインターネットを利用する人々の間に信頼や互酬性の規範が出来上がると推測される。このような性質を持つネットワークや資源を社会関係資本として位置付けられる。そして、それに投資する個人あるいは集団だけがその利益を享受する私的財という性質だけではなく、全体としての社会に利益を与えるものであり公共財としての性質も持つと考えられると分析した。

また、宮田はパットナムの指摘(Putnam 2000)に従い、社会関係資本を二種類に分け

て検討している。それは人々が閉鎖的で強い紐帯からなるネットワークを形成し、その人々の間で個別的信頼を育て、そのネットワーク内で何かをしてくれた人にお礼をするという特定の互酬性やネットワーク内だけでの一般化された互酬性の規範を作り上げていく結束型社会関係資本であり、また開放的で弱い紐帯からなるネットワークを形成し、一般化された互酬性に基づいて行動する一般的信頼を形成するような橋渡し方社会関係資本があるという。すなわち、前者には同質性の高い資源が、後者には多様な資源が埋められていると考えられる。これら二つの社会関係資本はその創出される構造や状況だけではなく、その効果も異なることが予想される¹²⁾と分析し、オンライン・コミュニティの特徴を宮田(2005a: 65-71)は次のように述べた。

インターネット利用によって現実生活での社会ネットワークが阻害されるというのは間違いである。つまり、インターネットを利用すると既存の対人関係と接触しなくなるのではなく、むしろ電子メールの交換に見られるように、既存のネットワークを補完していることが明らかである。

PCメールと携帯メールでは異なるネットワークをつないでいた。まずPCメールは弱い紐帯も強い紐帯も含めたネットワーク規模を拡大する可能性が示された。一方、携帯メールは家族や友人という既存の強い紐帯をつなげる役割を果たしている。いつでもどこからでもやりとりできる携帯メールゆえに「いつでも必要なときにはつながりたい」強い紐帯を維持するのに役立っているのだろう。今まで、電子メールは既存の強い紐帯を維持する働きが強調されてきたが、弱い紐帯を活性化させる働きがあると考えられる(p69)。

オンライン・コミュニティの参加者間の紐帯が強まるにつれて資源の同質性が生じる。それはコミュニケーションを促進するという長所もあるが、反対に排他的になって異質な発想を抑制する、ますます同質化を促進するという短所もある(p71)。

同質性と異質性の両機能への評価が高いコミュニティは、ライフスタイルや信条、趣味を共有する集団などであった。特にライフスタイルを共有する集団、趣味・関心・活動を共有する集団、政治組織、地域コミュニティ、エスニック集団への参加経験は世代を超えた社会ネットワークの形成に役立つと評価されていた。一方、同質性だけが高く評価されたのがスポーツチーム、職能集団、宗教集団であった。これらは異質性も高いと評価されたオンライン・コミュニティに比べて目的を共有しやすいコンテンツを扱っているからだと考えられる(p65)。

このように、インターネットのオンライン・コミュニティ介して、自分と異なる人やまったく知らない人とのやりとりを通して同質性が発見され、新しい出会いが生まれることにより、個人のネットワークが拡張される。このように、インターネットは個人のネットワークを強化する道具として

12) 宮田加久子 (2005a) 『きずなをつなぐメディア』NTT出版、p21-22

利用されているのである。

インターネットなどのコンピュータ・ネットワーク上で、これまで見も知らぬ、ゆかりもない人々が、共通の関心によって出会うような縁を、池田謙一(1997:10)は既存の地縁、血縁などと対比して『情報縁』¹³⁾と呼んだ。オンライン・コミュニティは、旅行、スポーツ、地域環境、ゲーム、仕事、健康管理などのように、利用者が共通の関心テーマのもとに集い、コミュニケーションをする社会空間(場)であり、そこに利用者が自主的に参加して相互作用し、意見交換や議論をする。議論の内容は以前からの内容を踏まえながら交換されており、発信者は固定することはなく適宜交代しながらコミュニケーションを行っており、双方向性が高い。また、誰でも参加することができ、その参加者は数人から数万人まで様々である。さらに、オンライン・コミュニティの電子掲示板は利用者がその場で接触するのに対し、メーリングリストはメールが来る形をとっており参加者の能動性の程度は様々である。そしてチャットはコンピュータ・ネットワークを通じてリアルタイムに文字ベースの会話を行うシステムであり、そこでは同期的コミュニケーションが行われている。それに対して電子掲示板や会議室は非同期的である。

特に、今回取り上げるDaum Caféの「동경유학생모임」というサイトは匿名の人たちが入会して運営されているサイトであるため、会員たちの関係がどうなっているのかと聞かれても、それは分からない。ただ、まったく知らない人たちが情報を交換し合い、助け合う弱い紐帯のインターネットサイトである。Daum Caféの「동경유학생모임」は、M・グラノヴェター¹⁴⁾が『転職』の3章で言っている、インターネット上の弱い紐帯¹⁵⁾の新しいバージョンに値する(M・グラノヴェターが言う弱い紐帯は対面頻度によって、強い紐帯と弱い紐帯を分けているが、本論文では対面関係とは一切関係ない。ただインターネットサイトの会員であることに着目して言っている)。つまり、このサイトに入会している人たちを分析すると、彼らは日本留学を共通分母にして集まっている趣味集団である。それ故、このサイトには様々な専攻の人たちが集まっており、また学歴、年齢、経済状況など、人的資本がバラバラな集団である。このように、何もかもがバラバラだから、情報が豊富である。だから留学生たちは「Daum Café」という弱い紐帯のインターネットサイトを通してソーシャル・サポートをはじめ、ソーシャル・スキル、パーソナル・ネットワークを期待しているのである。それに比べ、サイワールドはまず、対面頻度が高い人たち、すなわちとても親しい人同士が強い紐帯で結ばれ、運営されるインターネットサイトであり、携帯電話と並んで韓国社

13) 川上善郎・川浦康至・池田謙一・古川良治(1993)『電子ネットワーキングの社会心理:コンピュータ・コミュニケーションへのパスポート』誠信書房

池田謙一(1997)『ネットワーキング・コミュニティ』東京大学出版会、p10

14) M・グラノヴェター著、渡辺 深訳(1998)『転職』、ミネルヴァ書房、p52

15) 弱い紐帯の場合、知り合いは自分のサークルとは別のサークルに属する可能性が高く自分の情報と違う情報が得られるため、転職してからの満足度も高く高い収入を得たという報告と同様の事である。

会に新しく現われた連絡手段である。それゆえ、このサイトはお互いの心理的なサポートが期待されるが、情報収集にはあまり期待できないという特徴がある。

以下の節からは、韓国人留学生たちの事例を通し、どのようにインターネットを利用しているのかを説明する。

4. 韓国人留学生とインターネットの役割分析

今回の最大の発見というのはインターネットによるパーソナル・ネットワーク形成であった。奥田道大(1991；1993)の調査では有線電話を利用する留学生たちが描かれており、また栖原暁(1996)の調査でもインターネットという用語は使われていなかった。その時期はまた携帯電話もインターネットも留学生の間では普及していなかったため、インターネットによる連絡やパーソナル・ネットワーク形成という概念がなかった。

インターネットの普及は、一昔前の留学生と、今の留学生のライフスタイルを180度変えたと言っても過言ではない。すなわち、今の韓国人留学生たちは来日する前も、そして来日してから情報検索はもちろん、家族や友達との連絡を殆どインターネットでこなしている(387人)。また新しいパーソナル・ネットワークもインターネットサイトを通して形成していた。

4.1 ワーキング・ホリデービザを持つ留学生の特徴分析

留学生たちの調査を進めて行ったら、特徴的な人たちが見えてきた。それはワーキング・ホリデービザ(Working Holiday program)¹⁶⁾を持つ留学生のことだったが、彼らは他のビザの人たちに比べ、パーソナル・ネットワーク形成に苦しんでいることが分かった。

日本のワーキング・ホリデービザは1年の滞在が認められるビザであり、働きながら勉強するという趣旨のビザである。

就学ビザ¹⁷⁾や留学ビザを持つ留学生たちは来日してしばらくすると日本語学校でパーソナル・ネットワークが自動的に作られるのに対し、ワーキング・ホリデービザの人たちは日本語学校に通うより、アルバイト先で実践で日本語を学ぼうとするため、アルバイト先が決まる

16) <http://www.kr.emb-japan.go.jp/> 日本と韓国との間の一層緊密な友好関係を促進するとの精神の下に、両国の青少年がお互いの文化及び一般的な生活様式を理解する機会を提供するため、1999年4月より両国間でワーキング・ホリデー制度が開始されましたが、2006年発給分からは3600名に拡大します。なお、以前に発給を受けている場合には再度申請しても発給を受けることはできません。発給の日から1年間有効な一次入国査証であり、同査証により入国する韓国の青少年は、日本において最長1年間の滞在及びその間休暇の付随的な活動として旅行資金を補うための就労が認められます(ただし、バー、キャバレー等の風俗営業又は風俗関連営業が営まれている営業所において行うものを除きます)。

17) 就学ビザは6ヶ月毎に延長申請し、最大2年間日本に滞在することができる。

まで、他のビザの留学生たちよりパーソナル・ネットワーク形成に苦しんでいた。次は在日大韓キリスト教会東京教会で会った金さんのインタビューである。

金さん(22歳、女性、ワーキング・ホリデービザ)

私は、2008年9月に来日しました。専攻は日本語学科で大学3年生ですが、休学をして来日しました。専攻が日本語なので日本語学校は最初から考えていなかったです。学費がかかるのでアルバイト先で実践の日本語を習えばいいと思っていました。日本には知り合いなど一人もいないのでとても不安でしたが、学校の先輩たち皆、無事に留学から帰って来たので大丈夫だろうと思いました。

今、来日して2か月が経っていますが、未だにアルバイトが見つからず、生活リズムも崩れ、昼になって起きたりして、自分はダメ人間ではないかと思いました。そばに誰もいないと、人間がどれ程乱れるか、身を持って体験しています。

私は2ヶ月間、目が覚めたらすぐインターネットのアルバイトサイトに接触し、申し込んだり、アルバイト先に電話をかけて面接のやり取りをしていましたが、すべて断れてしまいました。どこが悪かったのか分かりませんが、なかなか雇ってくれません。

来日したものの、相談に乗ってくれる人など一人もいないことに絶望しましたし、とても寂しい思いをしました。部屋で毎日のように泣いていました。甘い自分に気が付き、とても嫌になりました。私の話を聞いてくれる友達が欲しいです。お金もどんどん減って、来月からはお父さんに家賃を頼むしかありません。

自分の状況がとても悲劇だったので、色々な想像をしていたら、ある日、小さい頃通ったキリスト教会を思い出しました。そこから教会に通うようになりました。教会の人たちはとても優しく、情報も豊富で、とても助かりました。先輩たちはいくら日本語が話せても、日本語学校に通わないと生活が乱れると言ってくれました。まるで自分のことをそばで見ているかのようで、とても恥ずかしかったです。先輩たちの一言一言は、自分みたいな未熟な人には一筋の光でした。教会の先輩たちの紹介で、来日してから3ヶ月になってようやくアルバイトが見つかりました。教会の人たちは毎日のように連絡してくれますので感謝しています。

金さんは来日して2ヶ月間とても寂しい経験をしたと告白してくれた。ワーキング・ホリデービザの人たちは日本語を習った人が多く、少しは喋れるので、最初から一人で来日し、アルバイトをしながら実践の日本語を学ぼうとするが、実際来日して見ると、学校の教科書では習ったことのない言葉が多いことに驚き、頭が真っ白になり、自信をなくす人が少なくない。こうした失敗の経験が重なると相談する人を探すのが、相談に乗ってくれる人がいないことに気付き、今まで経験したことのない孤独感と味わったことのない孤立感から絶望する人も少なくない(次節の事例をあげる)。金さんの場合、教会の人たちに助けられたが、頼る人など一人も持たずに来日したワーキング・ホリデービザの留学生たちは、苦しい今の状況を誰にも言えず、一人で悩んでいた。そこで彼らがようやく気付くのがオンライン・コミュニティの「

Daum Caféの동경유학생모임」なのである¹⁸⁾。

4.2 ワーキング・ホリデービザの人たちにとってのインターネットサイトの役割

ワーキング・ホリデービザの人たちは匿名の人たちが集まる「Daum Caféの동경유학생모임」の生活日記の掲示板を通して、ソーシャル・スキルやサポートを求めていることが確認された(以下の内容は全部韓国語で書かれており、筆者が翻訳したものである)。

ID : 좋은사람(<http://cafe.daum.net/japantoky0/2Nfg/27975>)

留学ってこういうことかな？私はワーキング・ホリデービザで来日して5か月と18日になる女の子です。毎日のように동경유학생모임のサイトを拝見させていただいています。先輩たちの貴重なアドバイス、いつもありがたく存じております。普段は見るだけでしたが、今日はとても寂しかったのでお酒の力を借りて、日記を書いています。私が留学した理由はちょっと変わっています。それは、身寄りのない異国で、無事に生活できるのかという、自分試しでした。私の身勝手な挑戦を聞いた周りの人たちは、厳しく批判したり、今、私が置かれている状況を説明し、留学を辞めさせようとしていましたが、私はすべての反対を振り切って来日しました。結論から言うと、日本語も話せないのに部屋も借りたし、5ヶ月も生きていますから行けると思いました。しかし、アルバイトだけは思うように行かず、今まで約30ヶ所のアルバイト先に電話をかけ、面接も7回受けましたが全部断られました。大手会社でもない、ただのレストランのアルバイトなのに、全敗して涙が止まりません。今はお金もなく、いつ電気や水が切れるか分からない状況に追い込まれています。私は一人であることが好きで、国にいる時は一人になっても平気でしたし、人はやがて一人になるものだと思って生きてきました。だから一人であるのが一番楽だと思い込んでいました。しかし、東京での一人暮らしは、韓国とは全く違うものであることに気が付きました。とても寂しいです。お金がなくて電気料金も払えずにいたら、ある日、電気が切れていました。部屋に戻って電気をつけようとしたが、電気がつかなかったです。私は今年23歳ですが、玄関先で靴を履いたまま何時間も泣きました。私は自分自身に「何のために日本に来たんだろう」とか、「韓国で大人しくしていたら、こんな酷い目にあわなくて済んだものを」とか、「何でここまで来て泣いているのか」など泣きながら呟きました。知り合いなど存在しない東京は寂しい限りです。人生を、一人の長い旅だとロマンチックに考えていましたが、一人ではとても寂しくて仕方ありません。遅すぎますが、日本語学校でも通えば良かったと思っています。先輩たち、私に慰めの一言お願いします。

(この日記の下には43人によるアドバイスやコメントが書かれていた)

18) 2008年10月から2009年10月まで筆者は在日大韓キリスト教会東京教会の青年2部に登録した86人の韓国人留学生とインタビュー調査を行った。86人全員がDaum Caféの동경유학생모임のサイトを知っており、全員がそこから様々な生活・アルバイト・部屋・大学・スポーツ同好会の情報を得ていると答えた。

ID : ㅍㅍㅍㅍㅍㅍ(<http://cafe.daum.net/japantokyo/2Nfg/30794>)

来日して5か月、ワーキング・ホリデービザで来日しました。私は日本語学校に通わなかったのに韓国人の友達など一人もいません。アルバイトはようやく見付き、働いていますが、店の人は全員日本人です。日本人に囲まれているので日本語を覚えるには最適な環境にいと喜んでいましたが、友達までは至りませんでした。彼女らも私を友達として思っているのかわかりません。とても寂しいです。韓国にいる時は、いくらお腹が空いても、一人では恥ずかしくて店に入ることはなかったですが、日本に来てからは本当に友達がいなくて、一人で店に入り、注文してキョロキョロしながら食べるようになりました。このような生活が続くと無味乾燥な女になるのではと思い、とても怖いです。とにかく友達がいなくて寂しいです。

(この日記の下には9人によるアドバイスやコメントが書かれていた)

ID : ひらがな(<http://cafe.daum.net/japantokyo/2Nfg/28305>)

皆さんはどう過ごしていますか？私は目が覚めたらご飯を食べて出かけています。お金もないし、友達もいないのでゲームセンターで暇つぶし。夜になると部屋に戻りテレビを見て寝る。また朝になり目が覚めたら食事をして出かける……毎日つまらない生活の繰り返しです。韓国とあまり変わらない生活をしています。ワーキング・ホリデービザで来ているし、しかも日本語学校も通っていないので生活が乱れています。またアルバイトをしようと思ったけど電話をしていますが、日本語ができないとダメだと言われています。とても悲惨です。今は悲劇だと思っています。私にもいつか明るい日が来るだろうと肯定的に考えていますが…どうなるでしょうか？

(この日記の下には9人によるアドバイスやコメントが書かれていた)

ID : 플라니아(<http://cafe.daum.net/japantokyo/2Nfg/39877>)

留学ってこんなもんですか？来日してからそろそろ3か月になります。来日する前は家族や友達に日本に行くのと誇らしく振舞っていましたが、いざ来日して見ると韓国とあまり変わらなかったのがっかりしました。なお、アルバイトを本格的にやると、店→部屋→店→部屋の直線往復運動の繰り返しです。はじめての一人暮らしだったので、料理もできず、食事生活が乱れました。日本語も下手で、アルバイト先ではいつも心細くしていますし、ようやくアルバイトが終わり、部屋に戻ると、部屋は自分が散らかしたままで、とても寂しい思いをしています。アルバイト先の日本人は同僚以上も以下もなく、友達までは発展しませんでした。話したいことがいっぱいありますが、話を聞いてくれる友達がいません。韓国人友達もいません。家族にしんどいと言いたのですが、自分の判断で来た訳ですから話せません。でもとてもしんどいです。日本に来て良かったというより、今は早く韓国に帰りたいと思っています。本当に寂しいです。

(この日記の下には13人によるアドバイスやコメントが書かれていた)

ID: 李ソヨン(<http://cafe.daum.net/japantokyo/2Nfg/36394>)

明日はコンビニの面接です。来日して4カ月になるワーキング・ホリデービザの学生です。私はアルバイトをしようと思い、何十軒のアルバイト先に応募をしました。待ちを待って、ようやくコンビニから電話がかかってきました。面接する日は決まりましたが、話すスピードが早くて、肝心なところが聞き取れなかったのも不安です。面接も今回が初めてですが、コンビニでは大体、何を聞かれますか？コンビニで働いている先輩たち、力を貸してください。(この日記の下には6人によるアドバイスやコメントが書かれていた)

今回の調査で明らかになったのは、日本語学校に通う留学生のほとんどが就学ビザ(372人)であるのに対し、ワーキング・ホリデービザの人はわずか23人で留学ビザの人は22人だった(留学ビザの人たちは学生である)。これはワーキング・ホリデービザの人たちが日本語学校に通わないからこそ人脈作りに苦しんでおり、また寂しい思いをするのである。ワーキング・ホリデービザの人たちが日本語学校に通わない理由については詳しく調査しなかったため、はっきりは言えないが、彼らが日本語学校に通わない理由を以下のように推測することができる。

まず、1年という短い留学期間が日本語学校に通う理由を邪魔していると思われる。それは、1年の留学で日本語の上達が見込めないから、日本社会を見よとする彼らの合理的な判断かもしれない。そして、日本語学校の高い授業料に原因があると思われる。日本語学校の1年間平均授業料は72万円¹⁹⁾であり、その金額は韓国の私立大学の1年の登録金と同じ水準(2008年韓国の国公立大学の登録金は41万円、私立大学の場合は73万円)の金額なので、それを払うと、ワーキング・ホリデーの意味がなくなるのである。だから彼らはアルバイト先でお金を稼ぎながら、実践の日本語を学ぼうとするし、来日するや否やアルバイト探しに血眼になるわけである。しかしワーキング・ホリデービザの人たちは一人で生活している故に、人から情報を得るチャンスが少ない。しかも日本語もまともでないため、面接を申し込んでも断られ続け、自信をなくし、そこから引き籠るようになり、外に出られなくなった人たちは、やがては窒息し、1年も持たずに帰国するのである。

我々は生活日記を通して、ワーキング・ホリデービザの人たちがパーソナル・ネットワーク形成にどれ程苦しんでいるのかを見た。それは、身寄りのないまま来日することがどれ程無謀であるのかが間接的に体験できる良い例なのである。しかしワーキング・ホリデービザの留学生たちは『동경유학생모임』の生活日記の掲示板を通して有効な情報やソーシャル・サポートを得ていることも確認することができた。こうした行動パターンは、ワーキング・ホリデービザの留学生だけに限らず、今の韓国人には共通的に見られる現状であることが同サイトで確認することができた(以下の内容は筆者翻訳)。

19) http://www.aikgroup.co.jp/aik/report/report2006/report20060428_01.htm Aik Report Vol.1 (2006年 4月28日の発表)

ID : 상큼오렌지^^ (<http://cafe.daum.net/japantokyo/4q9I/12251>)

こんにちは。私は船橋に住んでいる結婚2年目の主婦です。来日して1年が経ちますが、友達ができません。なお日本語もいまいちなので、悩んでいます。一緒に勉強しながら、おしゃべりしたいのですが、なかなかそういう人がいません。私と友達になってくれませんか？船橋近辺の人だといいですね。

☞ここから下は先輩会員たちのコメント

ID : Dmsgp:こんにちは、船橋は私のところと近いです。私は小岩ですよ。

ID : 싸랑이네:自転車で船橋に良く行きます。メッセージ送りましたから会いましょう。

ID : 으흠(<http://cafe.daum.net/japantokyo/KeA/3835>)

こんにちは。私は83年生まれの女の子です。ワーキング・ホリデービザで来日して3ヶ月になりました。他国での生活はなかなか大変ですね。私について少し話すと、目立つ人ではないが、暗い性格でもありません。誰にでも親しまれる性格で、話すのも好きですが、相手の話もよく聞いてあげる人だと思っています。音楽も好きですし、買い物も珍しいものを探し出すのが特技です。とにかく、ワーキング・ホリデービザで来日した方をはじめ、年が離れた方でも構いません。親しくなってお茶を飲んだり、写真を撮ったりして日本生活を充実にさせればいいなと思っています。

☞ここから下は先輩会員たちのコメント

ID : 東京ですか？私も83年生まれです。そして買い物に行くのが好きです。

ID : 도지 (<http://cafe.daum.net/japantokyo/4ulc/4203>)

こんにちは。川崎にある会社で勤めている30代の会社員です。来日して少し経っています。私の周りには役に立たない日本人ばかりで、夜とか週末は退屈で仕方ありません。私と同じ暮らしをしている方も多いかなと思われまして、集まりを結成しようと思いました。これから何をしようかというのは会ってから話しましょう。興味のある方はメッセージやメールお願いします。

☞ここから下は先輩会員たちのコメント

ID : 김기영0903:私も30代で、日本の会社で勤めています。もし集まりができれば連絡ください。友達になりたいです

ID : kensiro : 私も30代で、日本の会社で勤めています。集まりができれば連絡ください。できれば土曜日がいいな。

このように頼れる人など一人もない韓国人たちは、このハンティキャップをインターネットサバという手段を利用して、苦しい状況を乗り越えようとしている。

4.2 弱い紐帯・強い紐帯のインターネットサイトの分類とインターネットサイトの役割分析

4.2.1 弱い紐帯のインターネットサイトの役割分析

「Daum Café의 동경유학생모임」の掲示板は、まさに弱い紐帯の人たちによって運営されているインターネットサイトである。そして「生活日記」という掲示板は、留学生たちが日本で経験した切な問題から、つまらないことまで様々な事が書かれている。つまりこの掲示板には、アルバイト先で起こったトラブルをはじめ、大学入学試験に関する情報や日本語能力試験に合格する方法を求めるお願いの内容、部屋契約時の保証人問題に関する内容、ルームメイトとのトラブルの日記、ビザの問題、結婚の問題、事故に遭い対応策を求める内容など、今の局面から抜け出すスキルやサポートを期待し、まったく知らない匿名の先輩たちに自分の状況を晒し、助けを求めている。そうすると匿名の先輩たちは文書を読んで、自分の経験談を書いて情報を提供し、情報を共有するのである²⁰⁾。これがこのサイトの大きな特徴である。

インターネットサイトを通じたソーシャル・スキル及びサポートの伝授は、かつての留学生たちには見られなかった伝授方法である。つまり、かつての留学生たちは対面関係にある強い紐帯の人たちに限って、ソーシャル・スキルとサポートが伝授された。それは物理的な制約(時間と空間的な制約)があったため、限られた人たちだけがその支援を受けたのである。

田中共子(2000: 45-55)の報告によれば、ソーシャル・サポート一般として、最も偏相関係数の高い要因は「接触頻度」、次いで「関係」、そして「国籍」の順であった。その報告によると、留学生にとって毎日会う人にはかなりのサポートが期待できるが、3カ月に1回またはそれ以下しか会わない関係の人にはさほど期待できないと報告されている。それから関係別にみると、サポートが多いのは親戚とホストファミリー、少ないのは同居家族、教職員、チューター、同じ研究室の人であった。国籍別にみると、同国人からのサポートがもっとも多く、他の外国人からは最も少ない。年齢、性別の要因はあまり関係していないと報告している。

しかし、インターネットによる支援は、対面接触など一切なかった人たちから、ソーシャル・サポートやソーシャル・スキルが伝授されている。しかもインターネットによるサポートは物理的な時間・空間の制約がないことと、掲示板を見る人が多いことから情報の客観性が高い特徴があり、かつての支援方法とは全く違う。

また、異国ですみやかに適応して生活するためには、異文化に関するソーシャル・スキルの学習が必要であるとされているが、今の韓国人留学生たちは、そうした具体的な学習をもインターネットを利用して留学地の文化を調べたり、留学院で少し学習して来日している(387人)。

20) 동경유학생모임 사이트에서의留学生たちの助け合い(ソーシャル・スキル及びサポートの伝授)はあまりにも多く、それらの紹介は紙面の関係で省略するが、それを確認したいなら 동경유학생모임 사이트に入り、検索 키워드(외로워요, 도와주세요, 어렵해요 등)で検索すること。

全さん(22歳、女性、中国北京外国語大学日本語学科2年、韓国人)

私は語学研修を兼ねて2008年10月に来日しました。1年間日本語を学ぶつもりです。私は高校2年の時、高校の生活が無駄に長いことに気が付き、高校を辞め、高校卒業と同じ資格がもらえる検定試験を受け、合格しました。お母さんが中国で勉強することを進めたので、そのまま中国に行き、3年目になりました。お母さんがなぜ中国留学を進めたのかよく分かりませんが、多分、お父さんが中国の会社と貿易をしているから、お父さんの仕事を継がせるためじゃないかと思っています。

私の専攻は日本語で、中国人からも、韓国人留学生からも、中国まで来てなぜ日本語なのかと言われていますが、せっかく漢字を習ったので活かす方法を探したら日本語だった訳です。中国に行こうと思っていた時もそうでしたが、私はインターネットを通して様々な情報を収集しました。インターネットで調べた情報は中国人の文化をはじめ、生活情報、韓国人コミュニティなど、全部インターネットサイトを通して情報を集めました。もちろん、日本に来る時もインターネットを利用して留学情報を集めました。

大学で2年間、日本について習いましたが、直接来日してみると本では習ったことのないことがあまりにも多く、実際行って見ないと理解できないことがいっぱいあることを改めて実感しました。中国の日本語学科の先生たちから日本のことを学びましたが、私は韓国人なので違う観点で見ているのもかなりありました。それに比べ「Daum Café의 동경유학생모임」での韓国人先輩たちに教えてもらった日本に関する情報は中国人先生からの情報より、もっと詳しくて、正確だったと思います。日本には知り合いなど一人もいませんから、何かあったらどうしようという不安もありましたが、このサイトを通してルームメートも出会いましたし、アルバイトも紹介されました。それからインターネットを通して、家族や友達に連絡できるからとても幸いだと思います。

柳さん(24歳、女性、国書日本語学校、大学3年、就学ビザ)

私は2008年4月に来日しました。高校時代、第2外国語が日本語だったのでいつかは日本に行こうと思っていました。大学の専攻は経済ですが、日本語塾に通いながら日本語を勉強しました。2006年のある日、塾で동경유학생모임のことを知り、来日する前から留学情報や留学生たちの悩みをずっとチェックしていました。特にルームメートとのトラブルをはじめ、日本人とのトラブルを避ける方法などを学びました。来日してからもずっと見ていますが、このサイトは東京で実際生活している留学生たちによる今の話しなのでとても役に立っています。私はこのサイトの会員に日本語学校を紹介されましたし、ルームメートにもなりました。日本語学校を紹介した人とは親友になりました。

質問紙でインターネットを通じて知り合った人と直接会ったことがあるかと聞いた。その結果、431人中、83人が直接会ったと答えた。さらに83人に対し、インターネットを通じて繋がった人脈が実際の生活に役に立ったのかと聞くと、59人が助かったと答えた。しかし18人

は別に何の役にも立たなかったと答えた(7人は無回答)。これは、対面接触を媒介として徐々に親しくなるかつての留学生たちには想像し難い結果であるが、今は対面接触なしにインターネットを媒介してソーシャル・スキルやソーシャル・サポートが伝授される時代になったのである。このように、弱い紐帯のインターネットコミュニティは、将来の留学生たちにもためになるサービスになるとと思われる。

4.2.2 強い紐帯のインターネットサイトの役割分析

我々は人と出会うと、自分の名前を教え、少し親しくなると自分の情報を公開する。携帯電話や、インターネットが普及していなかった頃の個人情報、電話番号やFAX、家の住所がすべてだった。しかし今の名刺を見てみると、家の電話やFAX、住所にパソコンメール、携帯電話番号、そして携帯電話のメールアドレスまで書かれている。

韓国人はそれに加え、親しい人に公開するインターネットサイトがある。それはサイワールド(cyworld.co.kr)という個人が中心になって人脈を広げていくインターネットサイトの個人ホームページのことである。

cyworldは、韓国最大のソーシャルネットワークサービス(Social Network Service: SNS)であり、このサービスは個人が情報を提供するという特徴がある。つまり、このホームページには日記、フォト(画像)、写真、ゲスト帳などの機能が用意されており、その中身はホームページを管理する個人が全部作って掲示する方式である。また、そのホームページの中身を見るため(メッセージを残すためにも)には、ホームページ運営者の許可が要るシステムになっており、運営者と「1寸(イルチョン)関係」²¹⁾にならないとホームページの中身は見られない。

「1寸」申請はサイトに入り、相手の名前探して、名前をクリックすると色々な機能が出てくるが、そこから「1寸」申請というボタンをクリックすると運営者にメールが送られ、そのメールを見たホームページ運営者が許可すると親しい関係「1寸」になるわけである。

常識的に考えても分かるように、日記というのは他人に見せるものではない。にもかかわらず、個人の日記、フォト(画像)、写真を他人に見せる関係というのは相当親しいことを物語っている。このように韓国のサイワールドというサイトは家族・友人・知人、つまり強い紐帯の人たちとのコミュニケーションを取るために使われている強い紐帯のインターネットサイトなのである。

統計²²⁾によると、サイワールドの個人ホームページを運営する人は2006年10月現在、

21) 韓国では夫婦関係を0寸、親子関係を1寸、父の兄弟を3寸、父の兄弟姉妹の息子、娘を4寸という。それを因んでサイワールドでは日記まで見せる親しい関係を強調するために親近感ある言葉として1寸を導入し使用している。http://www.cyworld.com/joo4andsun

22) ウィキペディアフリー百科事典/ 머니투데이 (2006.10.19)
http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B5%E3%82%A4%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%83

韓国人口の半分、約2200万人が登録しており、2人中1人が利用しているほど一般化されている。〈表1〉日本のSNSであるMIXIとサイワールドの比較である。

〈表1〉 MIXIとcyworldの比較

	MIXI(日本)	cyworld(韓国)
加入者数	2009年現在(1,568万人)	2006年10月現(2,200万人)
接続方法	ユーザーからの招待により会員登録する	誰でも実名で会員登録ができる
内容	日記、フォト(画像)、写真、ゲスト帳などの機能が用意され、人と人との繋がりをベースとしたソーシャル・ネットワーキングサービス	日記、フォト(画像)、写真、ゲスト帳などの機能が用意されパーソナル・ネットワークを維持する
サービス開始	2004年	1999年
特徴	友達の招待によって加入できる。実名でなく、ペンネームでも利用可能	住民登録票に基づき、実名で誰でも登録可能。しかし他人の住民登録票を使って加入し、発覚された場合、法的責任を負うことになる

2008年10月から2009年10月まで筆者は在日大韓キリスト教会東京教会の青年2部に登録した86人の韓国人留学生を対象にデータを取っていたが、86人全員がサイワールドのホームページを運営しており、彼らはこのサイトを通して強い紐帯の人たちに自分の近況を知らせていたことが分かった。

金さん(19歳、女性、赤門会日本語学校)

父は今年で52歳です。韓国にいる時、お父さんはパソコンなど全然使わない人でした。家でパソコンを使っている人は私とお姉さんとお兄さん、3人だけでした。しかし私が来日してから、急にお父さんからメールが届いたり、サイワールドの自分のホームページのゲスト帳に「元気か」とか、「ご飯は何を食べた?」とか、「寒くはないか、寂しかったらすぐにでも帰って来いよ」というメッセージが届いたり、写真や日記にコメントが書かれていました。最初はうるさいと思いましたが、娘のために慣れないキーボードを打っているお父さんの姿を想像すると、とても愛されているようで、とても嬉しくなりました。

柳さん(24歳、女性、国書日本語学校)

私は留学説明会で崔さんという2歳年上の女のひと知り合い、彼女と来日し一緒に生活しています。彼女は今の私の一番の支えですが、2人とも今回が初めての海外生活なので戸惑っています。こういう戸惑いの中、彼女との写真や生活の日記をサイワールドに書いておくと、家族をはじめ、友達が励ましの言葉を書いてくれます。家族からのコメントをみると、自分自身が家族にどれ程大切にされているのが分かるし、友達のコメントにより自分は

人ではないことを確認します。一緒に生活している崔さんも大切ですが、家族や友達は精神的な支えです。私もそうですが、崔さんもサイワールドを通して私から期待できない精神的な支えを得ていると言っていますし、私もそうだと思います。

このようにサイワールドというインターネットサイトは、対面接触が長期間続いている非常に親しい人たちの閉鎖的な連絡手段であり、また情報の主観性が強い特徴がある。留学生たちは、強い紐帯の人たちとこのサイトを通して精神的・心理的なサポートを得ていたのである。

それに対し、Daum Caféの「동경유학생모임」は、加入者人の多さ(142,748人)から客観性の高い情報が提供されたり、そこから新しい出会いが生まれるので、非常に開放的なインターネットサイトだと言えるだろう。このように、今回取り上げた2つのインターネットサイトは各自の特徴を持っており、韓国人留学生たちはその特徴を自分の都合にあわせ使い分け、異文化での留学生生活を乗り越えようとしていたのである。

5 結論

韓国では90年代後半からインターネットが急速に広がり、現在ではインターネットを使わない方が珍しく思われるほど一般化されている。インターネットは我々に知りたい情報はもちろん、リアルタイムで世界の情報が提供され、またオンライン・コミュニティは未知の多数の人々と双方向性コミュニケーションもできるようにした。さらに時間と場所を越えてコミュニケーションが取れるようにした点は、従来の対面接触を伴うコミュニケーションにはない特徴なのである。

インターネットの登場は、血縁・地縁・学縁に拘ってきた韓国社会を変えつつある。つまり、今まで韓国人移民は家族や親戚などの身内を頼りにする連鎖移住(Chain Migration)が常識だったが、今回の調査ではその親戚が頼りになると答えた人は僅か7人しかいなかった。これに対し、顔も名前も知らない匿名の人たちが集まる架空の空間「インターネットサイト」を通してソーシャル・スキルが伝授され、またソーシャル・サポートが期待できるパーソナル・ネットワークが形成されているのが確認された。

〈表2〉 留学前・後のパーソナル・ネットワークが形成される場所

留学前のパーソナル・ネットワーク形成	留学後のパーソナル・ネットワーク形成
<ul style="list-style-type: none"> ・血縁・地縁のパーソナル・ネットワーク(7人) ・留学院でパーソナル・ネットワークが形成される(57人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語学校でパーソナル・ネットワークが形成される(107人) ・インターネットサイトでパーソナル・ネットワークが

<p>・インターネットサイトを通してパーソナル・ネットワークが形成される(83人)</p> <p>*括弧の数字は実数であり、無応答は示さなかった。</p>	<p>形成される(83人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教会でパーソナル・ネットワークが形成される(52人) ・ルームメイトやアルバイト先でパーソナル・ネットワークが形成される(13人/12人) ・スポーツ同好会や国際交流会でパーソナル・ネットワークが形成される(12人)
---	---

特に今回取り上げたDaum Café의 동경 유학생 모임というインターネットサイトは、対面接触がなくても、かなり確かなソーシャル・スキルとサポートが伝授されており、しかもパーソナル・ネットワーク形成にも有効に使われていた。つまり、このインターネットサイトは留学初期段階にある留学生たちをはじめ、身寄りのないまま一人で来日するワーキング・ホリデービザの人たちに、「周囲の人の援助を呼びかける道具」として利用されていた。

これに対し、サイワールドというインターネットサイトは、対面接触が長く続いている人、つまり共に費やした時間と経験を共有した非常に強い紐帯で結ばれている人たちとの連絡手段として利用されていた。このサイトは留学生自身が、自分の現在の状況を写真や日記を書いて強い紐帯の人たちに見てもらうシステムになっており、サイトに何かを書いて置くと強い紐帯の人たちが、励ましのコメントやアドバイスを書いて、留学生たちを激励し精神的・心理的なサポートをしていたのである。このサイトの特徴は情報の発信やパーソナル・ネットワークを拡大するためではなく、強い紐帯の人たちとの関係を維持するための連絡手段として使われていたのである。

インターネットが登場する前までは、頻繁な対面接触により信頼できる情報やサポートが得られた。しかし、インターネットの登場により、対面接触なしにも信頼できる情報やサポートが得られる時代となった。しかも、インターネットは現実の物理的な制限(時間と空間)により不可能だった数多くの匿名の人たちと情報が交換できたり、共有できるようにし、人類に大きな役割を果たしている(悪い意味でも善い意味でもそうである)。

特に韓国人留学生たちにとってインターネットは、血縁・地縁・学縁という強い紐帯の機能を衰退させているが、インターネットの両機能(閉鎖的/開放的)を十分に利用し、寂しい異国での留学生活を乗り越えようとしている。すなわち、強い紐帯のインターネットサイト(閉鎖的なサイワールド)を通して精神的・心理的なサポートを得ており、また弱い紐帯のインターネットサイト(開放的な동경 유학생 모임)を通してソーシャル・スキルをはじめ、サポートが期待できるパーソナル・ネットワークまで形成していた。

こうした結果からインターネットは、これからも新しいパーソナル・ネットワーク形成を希望する人たちに有効な道具として定着されると思われる。

【参考文献】

- 池田謙一(1997)『ネットワーク・コミュニティ』東京大学出版会、p10
- 川上善郎/川浦康至/池田謙一/古川良治(1993)『電子ネットワークの社会心理:コンピュータ・コミュニケーションへのパスポート』誠信書房
- 梶田孝道/丹野清人/樋口直人(2005)『顔の見えない定住化—日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』名古屋大学
- 小柳志津(2006)『感情心理学からの文化接触研究—財豪日本人留学生と在日アジア系留学生との面接から』風馬書房、p187-188
- 佐藤正二・相川(2005)『実践! ソーシャルスキル教育 小学校』充図書文化
- 田中共子(2000)『留学生のソーシャル ネットワークとソーシャル スキル』ナカニシヤ出版
- モイヤール康子(1987)『心理ストレスの要因と対処の仕方—在日留学生の場合』『異文化間教育』1号、p81-97
- 宮田加久子(2005a)『きずなをつなぐメディア』NTT出版、p48-49
- (2005b)『インターネットの社会心理学—社会関係資本の視点から見たインターネットの社会機能』、風間書房、p101-102
- M・グラノヴェッター著、渡辺深訳(1998)『転職』ミネルヴァ書房、p52
- 森岡清志(2000年)『都市社会の人間関係』放送大学教材、p19-20
- 山崎誠(1996年4月)〈留学生問題のいろいろ〉日本科学者 Vol.31 No.4(通巻339号)

—外国人著者—

- Arango, J., 2000, 'Explaining Migration : A Critical Review.' *International Social Science Journal*, p 291
- Darden, C.A, Ginter, E.J and Gazda, G.M. 1996. "Life-skills development scale-adolescent form: the theoretical and therapeutic relevance of life-skills." *Journal of Mental Health Counseling*. No 18: 142-163
- Foster, S. L., Inderbitzen, H. M., & Nangle, D. W. 1993 Assessing acceptance and social skills with peers in childhood --- Current issues. *Behavior Modification*, 17, 255-286.
- Riggio, R. E. 1986 Assessment of basic social skill. *Journal of Personality and Social Psychology*, 51, 649-660
- Segrin, C. 1998 The impact of assessment procedures on the relationship between paper and pencil and behavioral indicators of social skill. *Journal of Nonverbal Behavior*, 22(4), 229-251.
- インターネット新聞「머니투데이(2006.10.19)」

要 旨

韓国人留学生たちが来日してからよく利用しているインターネットサービスはサイワールド(cyworld、싸이월드)とポータルサイト「Daum café의 동경유학생모임」であった。Daum caféとサイワールドの大きな違いは、サイトを利用している人たちの「緊密度」にあった。サイワールドは対面接触が頻繁な強い紐帯の人たち同士のパーソナル・ネットワークの維持手段として利用されており、Daum caféは、会社や学校を離れた場所での顔も名前も知らない匿名の人たち、つまり緊密度の弱い紐帯の人たちが作る架空の集まりであった。

「동경유학생모임」というサイトは匿名の人たちが入会して運営されているサイトであるため、会員たちの関係がどうなっているのかと聞かれても、それは分からない。ただ、まったく知らない人たちが情報を交換し合い、助け合う弱い紐帯のインターネットサイトである。Daum Caféの「동경유학생모임」は、M・グラノヴェター(渡辺深訳 1998)が『転職』の3章で言っている、弱い紐帯の新しいバージョンに値する(M・グラノヴェターが言う、弱い紐帯は対面頻度によって、強い紐帯と弱い紐帯を分けているが、本論文では対面関係とは一切関係ない。ただインターネットサイトの会員であることに着目して言っている)。つまり、このサイトに入会している人たちを分析すると、彼らは日本留学を共通分母にして集まっている趣味集団である。それ故、このサイトには様々な専攻の人たちが集まっており、また学歴、年齢、経済状況など、人的資本がバラバラな集団である。このように、何もかもがバラバラだから、情報が豊富である。だから留学生たちは동경유학생모임という弱い紐帯のインターネットサイト(開放的インターネットサイト)に接続し、ソーシャル・サポートをはじめ、ソーシャル・スキルやパーソナル・ネットワーク形成までも期待するのである。

それに比べ、サイワールドはまず、対面頻度が高い人たち、すなわちとても親しい人同士が強い紐帯で結ばれ、運営されるインターネットサイトであり、携帯電話とともに韓国社会に新しく現われた連絡手段である。しかし、このインターネットサイトは非常に閉鎖的であるがゆえに相互の心理的なサポートは期待されるが、情報収集にはあまり期待できないという特徴がある。

韓国人留学生たちはこの強い紐帯(閉鎖的)/弱い紐帯(開放的)のインターネットサイトを都合よく使い分け、異文化での留学生生活を乗り越えようとしているのである。

キーワード：ソーシャル・スキル、ソーシャル・サポート、パーソナル・ネットワーク、
Daum Café의 동경유학생모임、cyworld(싸이월드)

투 고 : 2011. 5. 31

1차 심사 : 2011. 6. 11

2차 심사 : 2011. 6. 25